

平成28年度第2回 草津市自殺対策推進会議		
日時	平成29年2月2日（木）午後2時00分～4時00分	
会場	草津市役所 8階大会議室	
出席者	委員	草津市社会福祉協議会、草津市民生委員児童委員協議会、滋賀県司法書士会、ハローワーク草津、草津栗東医師会、草津警察署、草津総合病院、市民公募3名、滋賀県南部健康福祉事務所（草津保健所） 〔計11名、順不同〕
	事務局	健康福祉部部長・太田ひろみ、同副部長・小川薫子、健康増進課長・田中みどり、同課参事・中瀬明美、同課参事・古川郁子、同課副参事・松尾晶子、同課専門員・田中亜紀、同課主任保健師・岩崎容子、同課事務・岡根久美子、人権政策課課長・須原正哲、人権センター参事・青野泰代、納税課課長・永池孝志、生活安心課課長・富田洋幸、商工観光労政課課長・角一朗、社会福祉課副参事・堀井武彦、障害福祉課課長・黒川克彦、長寿いきがい課課長・山際喜一郎、子ども家庭課課長・山本智加江、少年センター・中出幸宏
欠席者	委員	草津商工会議所、滋賀県自死遺族の会、滋賀いのちの電話
会議資料	別添のとおり	

次第1. 健康福祉部長あいさつ

皆様こんにちは。本日は、大変御忙しい中、また大変寒い日になりましたが本年度第2回目となります草津市自殺対策推進会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様方には、日頃から本市の保健衛生行政に多大なる御支援、御協力をいただいておりますことに、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。既に皆様方御承知をいただいておりますとおり、平成10年以降、国を挙げて自殺対策を推進しているところでございますが、今日までの取り組みの効果もあったことと思っておりますが、今年1月に発表されました国の平成28年度の自殺者数の速報値は前年と比べまして、2,261人減少し2万1,764人となりました。7年連続で減少しており、前年比マイナス9.4%と過去最大の減少率となっております。草津市におきましても、本市の実態や現状に即した自殺対策を進めるための指針となります、草津市自殺対策行動計画に基づき関係機関の皆様と連携しながら自殺対策の取り組みを進めているところでございます。これまで毎年20人前後の方が自殺をされるという状況が続いておりましたが、平成28年につきましては、まだ確定はしておりませんが、大幅な減少が見込まれております。

国に準じた状況に見て取れますが、まだ自ら命を絶たれるという大変苦しい立場に置かれている方は多くおられる現状は変わっておりません。そういった方がなくなる社会を作るために今後取り組みなければならないと考えております。前回の会議におきましても、委員の皆様方から、身近なゲートキーパーとして市民がお互いに支えあうことの重要性や関係機関同士で連携しながら取り組む重要性について御意見をいただいたところでございます。本日は国の自殺対策の動向や草津市の現状、市を挙げて取り組んでおります事業の報告をさせていただく中で、改めて推進の方向性の確認をさせていただきたいと思っております。今日は委員の皆様方それぞれの立場から忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

次第1．国における自殺対策の方向性について

資料P 1～3に基づき事務局より説明。

(委員長) 国における自殺対策の方向性について委員の皆様から質問などあるか。

若い世代で自殺が多いということだが、国際自殺予防学会で、韓国で若者の自殺が多いという報告があった。原因として、大学卒業しても失業している若い人が多いということだった。日本のデータは韓国よりも多いと理解してよいか。

(事務局) 比較した先進7カ国の中に韓国は入っていないため、比較ができていない。

(委員長) 韓国は非常に悲惨な状況だと報告されていた。

その他何か質問はないか。最近子どもの虐待や自殺が多く取り上げられるようになったが、国からのデータで自殺との関係が何か示されたのか。いじめを苦にしての自殺が関係するののか。

(子ども家庭課) 子どもを連れて自殺された場合、子どもの虐待に挙がると思う。

(委員長) 心中みたいな自殺ということだろう。

(子ども家庭課) それを虐待としても挙げられているかと思う。そういう形の虐待と虐待して死亡させた事例に区別して件数が出されていると思う。

(事務局) 特に数字があって話をするわけではないが、普段の関わり等の中で感じることは、虐待を受けた子は資料P 3、10のファクトのうちの「7自殺のリスクを抑制する要因」にあるような「自己有用感」が非常に低くなると考えている。自分は出来る子で大丈夫という思いが持てずに、困難な状況になったときに自ら死を選んでしまうということになりやすい印象がある。そういったところも虐待を受けた子が自殺のリスクが高いということにつながってくると考えている。

(委員長) 草津市でもそのような事例はあるのか。

(事務局) ある。

(委員長) 草津市は関西地区で住みたい地域といわれているが、そういった意味では良い条件になっているのかも知れない。他に質問はないか。

次第2．草津市の自殺の状況について

資料P 4に基づき事務局より説明。

(委員長) 資料の数字は3年間を加算した数字。男女別では50代の女性が多いのが目に付いたが、何か質問はないか。

(委員) 家族の有無など分かるのか。

(事務局) 死亡小票で把握できるのは書類上だけになるため、配偶者があったかどうか、死別、離別、未婚と区別されるが、その家族状況について詳しい状況ははっきりわからない。数をまとめていないが、特に傾向といえるような偏りはなかったと認識している。

(委員) 先程、国の報告の中でも、多くの人が自殺について相談しなかったとあったが、草津市の場合も、相談ができる家族がなかったり、家族がいても相談できる相手がいなかったのか、地域の中で独り暮らしの方達に何かできることがあるのか、その辺はとても重要であるので聞きたい。

(事務局) 相談相手がいたかどうかは、実際亡くなられた方についてはわからない状況。市の支援には繋がっていないケースが圧倒的に多い。

- (委員長) 自殺者数の推移の中で男性は減少してるが、女性は横ばいで40代、50代の自殺が多いようだが、広域で滋賀県ではどうか。
- (委員) 滋賀県の状況をもて、確かに減ってきている。男性が減少してきている状況で、女性は男性よりは少ないが横ばい。就労や借金問題の対応に効果があったと考えている。そういった面で命を絶たなくても良くなったのか、あるいは対策が講じやすいのか、効果が出てきている。女性はどういう要因があるのか、若い方は数的にはもっと少なくなるが、なかなか減らないどころかわずかに上向き傾向にあるため、残された課題である。全体の数は減っているが手付かずのところが多くあるため、草津市と県内、全国は同様の傾向にあると考えている。
- (委員長) 男性は経済的なリスクから少しずつ解放されているということだが、ハローワーク草津や司法書士会から何か意見はないか。借金の問題では取り組みが多いか。
- (委員) 多重債務の問題というのは、利息制限法や貸金業法の改正等で以前程は酷くなくなってきた。現在は、貧困で生活していけない、借金を返済しても複合的な要因で困っておられる方が増えた気がする。人数的なところはわからないが、より他部署との支援や連携が必要になると感じている。
- (委員長) 自殺の方法について、何かデータはあるか。
- (事務局) 平成28年の分では、殆どが縊首・窒息で亡くなられている。次いで飛び降り。入水、農薬などの薬物でなくなる方などが少数ずつある。
- (委員長) そういったデータが警察の方にも情報が集まってきていると思うが、草津市で特徴的なものはあるか。
- (委員) 草津市で特徴的なものは特にない。警察では、色々な所に目を光らせており、インターネットへの書き込みには事前対応できるようにしている。自殺めいた書き込みがあれば本人を特定して対応することもある。最近ではツイッター等のSNSを通じて他府県の方と管内の方が繋がりがあつた中で、連絡が取れなくなった、悩んでいて自殺をほのめかす言動をしていて心配なので行ってもらえないか、と連絡が入ることもある。草津警察署管内だけでなく、他府県からの相談ごとにもスピーディに対応している現状。
- (委員長) 警察の方も進んで対策を立てている。他に意見等はないか。
- (委員) ゲートキーパーについて、1月の職員向け研修のステップアップ編を受けたが、とても良かった。病的な問題を解説し、それを踏まえて周りがどうするのかというのが主な話だった。講師が初めに、「自殺対策は地域づくりですよ」と話され、やっぱりそうかと思った。日本財団の調査結果にもあるように、その地域に住んでいて良かったと思えるような地域にすることが一つの対策方法だと話されていた。ゲートキーパーの講習会を受けた後には、民生委員の定例会で内容を伝えた。改選時期で半分が新人だったため、ゲートキーパーという言葉自体知らず、ゲートキーパーの話や自殺の問題をかいまみで話したところ「初めて聞かせてもらいました」と言われた。孤独や孤立は地域で防ぐ一番大事なことだと定例会で結論付けて、対策を進めていく中の私達ができることはそこに尽きるのかなという結論に至った。
- (委員長) ゲートキーパーについては、後ほど御意見をいただきたいが、核心に迫るような発言はありがたい。

次第3. 平成28年度自殺対策行動計画における主な取り組みについて

資料P5～7に基づき事務局より説明。

(委員長) ゲートキーパーについて、今貴重な話があったが、ほかにゲートキーパー養成研修に参加されたことがある委員がいれば、意見が聞きたい。あるいは市役所の各課の中でゲートキーパー養成研修を受け、何かあれば発言していただきたい。

草津市のゲートキーパー養成講座は進んでいると思う。こういった取り組みは世界的に行われていて世界各国で力を入れている。草津市でも、多くの方が講座に参加している。

(委員) 職員向け研修のステップアップ編の参加者は若い女性が圧倒的に多かった。グループで色々話をしている中で、若い方は本当に真剣に考えているのかなと感じた。人生経験が全然違うので一律には言えないが、ゲートキーパー講座が実感として受け入れられているのかなと感じた。

(委員長) 今後も草津市で進めて欲しい。次に、自殺未遂者支援について意見等はないか。色々な方が関わっていると思うが、その中で、草津総合病院の方はどうか。

(委員) 自殺未遂者があった場合に「湖南いのちサポート相談事業」につないでいるが、こちらからの一方通行になっているように感じている。例えば妊産婦のハイリスクは、必ず書面でその後の報告をもらうが、そういった報告がない。自殺未遂者は何度も繰り返される方が多いが、再企図で来た際に医師から、「この前事業につないだはずなんだけれども、その後何も支援されなかったのか」と質問を受けた。実際問題どうされているのか見えない部分があるため、何らかの形で報告があると、医師からも理解を得られ、事業内容について周知徹底できるため検討して欲しい。

(委員長) その他湖南地域の自殺未遂者対策等で会議している関係者から、何か意見はないか。

(委員) 特に自殺対策ということで対応しているわけではなく、精神障害をお持ちの方等への就労支援の中で間接的に関わっていると捉えている。就労支援では、その方の背景として自殺未遂歴があるとか当然考えながら指導していく。直接的には就労していく上で障害になるのかといった観点で見えていくこともあり、関係機関との連携が必要。一人の方を支援して行く中で就労の場合、様々な機関の中の関わりの部分を情報共有しながら支援を進めていくことが必要になってくる。

(委員) 自殺未遂者支援の直接の関わりに現在は入っていないが、債務整理やそういった問題で来られる方は色々な問題を抱えている方が多い。その中で、あまり口に出さない方やひとりで抱えてしまっているような方に関しては、できるだけ話を聴いて、その上で病院やハローワーク、場合によっては生活保護担当につないだり、その他多くの支援機関に連携している。未遂者の方に特別に何かしているというのは今のところない。他府県（福岡）では司法書士会が支援連携機関に入って経済的な問題を抱えている方がいた場合、連携して対応するというような協定を結んでいるということを聞いたことがある。

(委員) 湖南いのちサポート相談事業については、直接関与していない。未遂者の方の救急の現場についての警察や消防が多く対応している。警察としては自殺未遂現場があれば、人命第一という対応をしている。自傷他害の疑いのある場合、滋賀県知事あてに通告し草津保健所の対応があり、保健所の機敏な対応に大変助かっている。

(委員長) 支援事業で日頃からバックアップしている草津保健所から何かないか。

(委員) 資料P7の資料を見て、なるほどと思った点が1点あった。保健所の方は自殺予防情報センターが主体の湖南いのちのサポート事業が中心になって動いているが、その実績が2年間で草津市は14件、事業以外からキャッチされているのは11件と、救急告示病院始め支援のネットワークの大きな幹ができてきつつあると思う。そういったものができていくとそれ以外のネットもきちんと張れるようになってくる。事業外で未遂者の連絡を受けるのが、去年は課の中だったものが、今年になって広がっており、本人からの相談が入ってくるというところがとても良いと感じた。

ゲートキーパー養成の話もあるが、地域では、“あの人大丈夫かな”と見聞きしたり、相談を受けたがどうしたら良いか等の事例も実際沢山あると思う。草津市での対応がより広がれば、今後連絡ルートとして、関係機関、救急告示病院や警察といった公的な部分だけでなく、住民ベースの皆さんの方からも連絡が入ってくるようつながっていき、ひいては住みよいまちづくりや暮らしやすい草津市につながり、大変良い形で事業が展開していくと思う。

(委員長) 他に自殺未遂者支援について意見等はないか。

(委員) 自殺未遂をした若い方の就職について、ハローワークの方にお尋ねしたい。以前NHKの番組で、精神障害をお持ちの方や障害のある方の採用を優先している企業について、とても業績を上げていると紹介をされていた。草津市ではそういったことに対して理解のある事業所はあるのか。

(委員) 草津市に限らず、県内で障害者の就労支援をしてきているが、特別自殺未遂者といったところに焦点を当てて積極的に採用といった話を聞いたことはない。最近の傾向としては、精神障害を持つ方に関して、国の施策の中でも障害者雇用率の改正や色々な施策を駆使して優先的に雇用していただくことを、各企業にもお願いしている。その中で過去に自殺未遂歴のある方についても、当然ながら就労の準備が整って仕事に就いた後にどのようなバックアップをすれば就労が継続できるのかを支援している。全般的には、社会全体で就労の受入れをする風潮にはなってきていると感じている。

(委員長) 精神障害者全般の就労支援体制については、地域によって変わるが、色々なところが努力しているため、御家族の方も支援機関を利用して欲しい。ハローワークは非常に先進的な役割を果たしてもらっているので期待している。

他に意見はないか。

(委員) 毎月定例会をしているが、高齢者の引きこもり問題がよく出てくる。そういった方達をどのように地域に引き出すかというのが大変難しく、出てこられない方をどのように誘って引きこもりや孤独から抜け出させるかというところを課題に感じている。チラシ等で何かきっかけを持ちながら、一人でもそういう方がいなくなるようにと考えている。

草津学区社会福祉協議会の主催で「ゆかい家」という地域住人支え合い協同活動拠点を作っている。そこに来られる方は誰かと話をしたりみんなで歌を歌ったり楽しくすごし、来られているボランティアの中には、それまで家で引きこもっていたが、ボランティアをすることで自分にも何か役に立つことができるという人もおり、自分の存在意義を感じてもらえるような場所でもあると喜んでいる。こういった場所が草津市内の各地域に増えてきていることが喜ばしい。また、子ども家庭課の事業で、子どもの居場所作りという事業をしている。市内のひとり親家庭の子どもを募集し、現在十

数人集まり、大学生達と食事をしたり交流をしている。その中で自分の夢や存在価値を語り合う様子を見ているととても素晴らしく、この事業はこれからもっと広がっていくべきだと思っている。全国的には「子ども食堂」ができており、その中で自分の役割や自尊感情を育てたり、地域の大人の人達の中で育つことで教えてもらえることも多くあるため、地域での取り組みは必要と考えている。先程、地域づくりが一番大事だと言われ、民生委員として、とても多く抱えていると思いながら、地域で住みよい環境づくりを行っていくことをこれからも行っていきたい。

(委員長) これに対して草津市から何かあるか。

(子ども家庭課) ゆかい家で **Tudo Toko** (つどとこ) と名前を付けて中学生のひとり親家庭の子どもを対象に毎週2時間学習支援や生活習慣の習得や食事の提供の事業を行っている。現在13人の子どもが8、9割参加しており、そこで同じ家庭環境の友達同士で学生ボランティアの運営スタッフと交流する様子から、非常にこの子達はこういう場所を求めているのだと感じている。負の連鎖を断ち切るためにもこういうことをしていかなないと子ども達は成長していかないということで、モデル事業という形で実施している。将来的には2箇所、3箇所と広げたいと思っており、さらに、高齢者のひとり暮らしの方と食事などをするとところまで広がっていけばよりよい草津になっていくだろうと、希望を持ちながら事業を実施している。

(委員) あすくる草津(少年センター)の活動において、農作業は有効らしく、一緒に育てて調理実習し一緒に食べる。外ではつっぱった子もあすくるの中では童心に返り、素顔をさらけ出して、職員と一緒に活動している話を聞き、とても良いことだと思う。あすくる草津はあまり知られていない。是非支援の場所として再認識して欲しい。

(少年センター) あすくる草津について京都新聞に掲載されたので、是非見ていただきたい。市内の中学3年生の生徒が掲載されている。自殺未遂云々ではなく、子ども達の居場所作りということで、現在は9人の少年が通所している。

(委員長) 私もあすくる草津では色々お世話になっているため、今後もよろしくお願ひしたい。最後に精神科の診療所ではどのようなことをしているのかということについて話したい。日頃自殺未遂者や希死念慮を持つ人を多く診療しており、全体の半数の方が初診で来られている状況。その中の一部が自殺未遂の経験がある。今までは、診療所で患者さんと関わってきたが、これからはもう少し診療所の先生は外に出て行こうということで、総合病院や救急告示病院で精神科の医師がおられない、足りずに困っておられるところで何かお手伝いできないかと、意見交換をしている。

他に何か質問、意見はあるか。

(委員) この会議の委員になったことをきっかけに、自死について勉強できてよかった。関連図書も読み、これから自分が何をしていきたいか考えるきっかけとなった。

(副委員長) 自殺に対する予防策として、気分転換にスポーツを盛んにするというのも、有効な方法ではないかと思っている。

—————会議終了—————